

## 私の師匠は日本一

今回は、私のギターの師匠のお話です。その前に私は60の手習いとして還暦を迎えた6年前にクラシックギターを始めました。若い頃(1960年~70年代)は高校にもギタークラブがあり活発でした。そしてグループサウンズやフォークも全盛期で、エレキギターやアコースティックギターでコードを押さえてフォークソングを皆で歌ったものです。

ギターは今流行りの楽器ではありませんが、最近、若い時にギターサークルを経験した同年代の退職組がポチポチギターを弾くようになってきました。私はクラシックギターの経験がありませんでしたので、タイムスカルチャースクールで週1回、1年半にわたってド・レ・ミ・ファから習い、簡単な曲が弾けるようになりました。それが6年前です。

仕事が忙しく、しばらく中断しておりましたが、4年前から浦添市中央公民館で毎週火曜日にギターサークル「ソニード」で25名の仲間と弾くようになりました。先日は第9回定期演奏会がパレット久茂地の市民劇場で行われ、来る5月15日(日)は名護でも演奏会があります。

さて、サークル活動と並行して個人レッスンも受けていますが、その先生がノエル・ビリングスリー(36歳)というイケメンギタリストです。ノエルさんは、父親がイギリス人で母親が日本人のハーフですが、見かけや大阪で育ったこともあり言葉使いは全く日本人です。イギリスの音大へ留学中に知り合った奥様が沖縄の女性という事で、数年前から沖縄に移住しています。

奥様の実家が弁当屋さんらしく、毎日壺川あたりで弁当80個を売るのがノルマとか。ロンドンの音大では首席で卒業したという事もあって、ギターの音色は抜群です。私もギターの音の出し方、つまり弦の弾き方、爪の形、長さなどかなり初歩的な事から始めました。お蔭で最近ではソニードの仲間から音が格段に良くなったと称賛されることもあります。

ノエルさんは**昨年の第42回日本ギターコンクール(大阪)**でいきなり**第1位**になりましたが、審査員の書評ではダントツ1位で、そのために2位がなく、3位を2名にしたということです。

今年も快挙でした。5月3日私も応援で上京しましたが、**第47回クラシカルギター・コンクール(東京)**で見事に**第1位**でした。12時から2次予選33名、5時から本選6名、成績発表が8時半でしたので約9時間会場に居り正直疲れました。

しかし、本選ではノエルさんのギター演奏(課題曲バリオスの大聖堂)が始まると琴線に触れ涙が出るほどの出来栄でした。ご本人曰く、全く震えがなく思い通りスムーズに弾けたようでした。その瞬間は自分でも神がかったと言っていました。集中していたのだと思います。第2位は3年連続2位となった斎藤君(19歳)でした。審査員の話では、その二人が飛び抜けてうまくて僅差だったようです。その他は団子状態で3位はなしでした。

ノエルさんは今後県内外で活躍するものと期待しておりますので注目して下さい。**7月にはパレット久茂地でリサイタルの予定です。**(たまなは)